

表 4073 2014年中の腹膜炎発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,060 (87.0)	227 (9.6)	50 (2.1)	17 (0.7)	6 (0.3)	9 (0.4)	2,369 (100.0)	1,763	4,132	0.21	0.75
腹膜透析 (APD) (%)	1,270 (88.4)	124 (8.6)	19 (1.3)	7 (0.5)	5 (0.3)	12 (0.8)	1,437 (100.0)	899	2,336	0.21	0.91
腹膜透析 (CCPD) (%)	428 (86.5)	49 (9.9)	13 (2.6)	1 (0.2)	2 (0.4)	2 (0.4)	495 (100.0)	225	720	0.21	0.64
合計 (%)	3,758 (87.4)	400 (9.3)	82 (1.9)	25 (0.6)	13 (0.3)	23 (0.5)	4,301 (100.0)	2,887	7,188	0.21	0.79
記載なし (%)											
総計 (%)	3,758 (87.4)	400 (9.3)	82 (1.9)	25 (0.6)	13 (0.3)	23 (0.5)	4,301 (100.0)	2,887	7,188	0.21	0.79

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

\*個々の患者の腹膜炎発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy